資　料　D-13-3

平成 26 年 10 月 14 日

第 3 回男女共同参画部門「女子会」報告

人材育成委員会
委員長　為近恵美
男女担当　根本香絵

人材育成委員会では、応用物理学会内で孤立しがちな女性会員のネットワーク作りが重要であるとの観点から、第 75 回応用物学会秋季学術講演会で「女性研究者ネットワーク女子会」第 3 回を開催致しました。女性会員ネットワークのみならず、ライフ・アンド・ワークバランスのある働き方を模索する会員の交流を図ることも目的としています。

第 3 回となった本会では、女子会メンバーの会員、旧男女共同参画委員会のメンバーから参加と、学会全体にも呼びかけを行い、当日会合には 17 名（女性 13 名、男性 4 名）の参加者がありました。学会内におけるネットワークの必要性等について、幅広く意見交換を行いました。

今回は 8 月に IUPAP の第 5 回 ICWIP へ応用物理学会から参加していることから、そのなかから特に話題となった「unconscious bias」についての紹介がありました。私たちが男女の分けなくもつ、評価時の女性に対する負のバイアスについての論文は、評価における意識の改革の必要性を科学的に示すものです。会場では、応用物理分野で女性が活躍する上での障害について議論が進みました。簡単には解決方法が出ない問題でありますが、少しずつ無意識のバイアスが意識へと変化することが、本質的な解決への第一歩であるようにも思われます。

また、会場には、様々なキャリアや年代の女性研究者が集まることで、キャリアパスの身近なロールモデルの紹介ともなりました。今回は立食形式であったこともあり、身近な問題を相談できる機会としても役だったようです。話題も評価のあり方から、産休・育休、他のネットワークの状況や、キャリア・進路相談まで実に様々な話題が出たことも、ネットワークの重要性を物語るものと言えるでしょう。政府主導で男女共同参画事業に大きな焦点が当たっている昨今ですが、大学・研究機関・企業など、そのあり方や風土は実に様々で、地味ではありますが継続的な情報交換、情報共有が重要であることを改めて確認することができました。

ところで、応用物理学会の「女子会」は女性会員に限るということはないのですが、今回の会合で多くの男性会員は自分とは関係ないものと勘違いをしているらしいことが判明し、今後「女子会」の名前を変更することを検討することになりました。ライフ・アンド・ワーク・バランスに高い意識をもつ会員が性別に関係なく本会に参加することで、男女共同参画が加速するものと考えます。

女性研究者ネットワークのさらなる拡充を目指し、春季学術講演会で行う予定のシンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達」と連動して、第 4 回女性研究者・技術者ネットワーク女子会（オブジョ）を開催する予定です。

以上